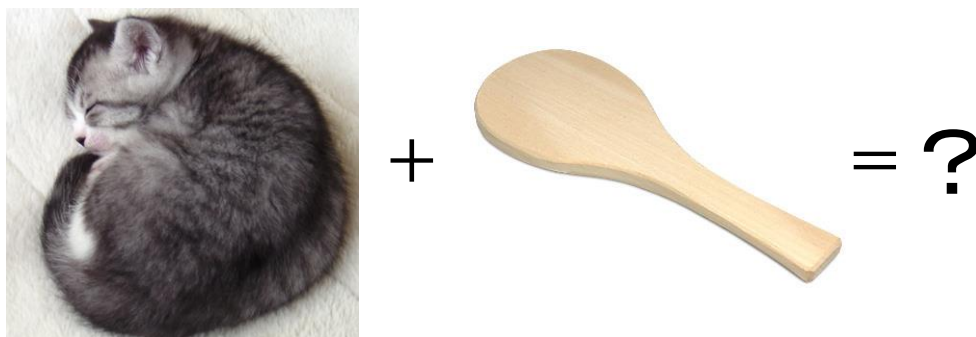


慣用句 暗記プリント



使い方

- ※ 指定されたページを暗記してきてください。
- ※ 例文の穴埋めができればOKです。
- ※ □には漢字、○には平仮名か片仮名が入ります。
- ※ 漢字で憶えてください。

あいづちを打つ 相手の話に調子を合わせる

① 「うち」は「トンカチ」のこと。「木ツチ、金ツチ、打ち出の小ツチ」

青菜あおなに塩しお

すつかり元気をなくす

赤子あかこの手をひねる とても簡単にことを行う

① 「赤子」は「赤ん坊」のこと。かわいそうだ。

あげ足をとる

相手の言葉じりをとらえ、大げさという

挙句あげくのはて

最後の最後

① 「挙句」は連歌の最後の「七・七」のこと。

あごで使う

いばった態度で人を使う

あごを出す

ひどく疲れる

足が出る

予定より費用がかかる

① 「足」は「金」の意味。人の間を行き来するところが似ている。

足下しもとを見る

弱味につけこんで、強くでる

① 昔のかが屋が旅行者の足の疲れを見て、料金をあげたことから。

足を洗う

悪い仕事から、すつかりはなれる

足を引っぱる

他人の邪魔をする

味をしめる

成功が忘れられず、またやりたくなる

頭かぶが上うへがらない

相手にさからえない

頭かぶが痛い

うまくいかずになやむ

頭かぶが下したがる

相手を尊敬し、感心する

頭かぶをかかえる

困って考えこむ

頭かぶを冷ひややす

冷静になる

あとの祭りまつり

気がついた時には、もう遅い

① 京都の祇園祭りでは、山鉦やまかね（やまほこ）が出る前半だけが面白かったことから。

「慣用句って面白いよな」「うん！」ぼくは即座に○○○○を打った。

普段は快活な男だが、花粉症のこの時期は□□に塩で元気がない。

ふつ、こんな問題オレ様には□□の手を○○○○より簡単……アレ？

「お前らの仕事は勉強だ」「じゃ給料ください」「人の○○□をとるなっ」

入試当日、私は寝坊し、道に迷い、□□のはてにドブにはまった。

人を○○で使うようなあの態度がステキ。ああ、ジャイアン様…。

「この程度でもう○○を出すのかッ」「先生：校庭300周は無茶っすよ」

電車賃節約のため歩いたが、結局タクシーに乗り□□が出てしまった。

いくら山の頂上でも、缶ジュース300円だど!? 人の□□を見やがって!

彼は裏の世界からはすつかり足を□い、今では真面目な塾の先生だ。

自滅するのは勝手だが、他人の足を□○○○のは勘弁してくれ。

葬式そうしきを理由にズル休みするのに□をしめ、彼は三人目の祖父を殺した。

幼時から姉に支配されてきた彼は、女性にまったく頭が□○○ない。

隊長に就任したはいいが、部下がアホばかりで、まったく頭が□○。

君の、常に自分を限界まで追いこもうとする姿勢には頭が□○○よ。

「頼んだのは女装じゃなく除草だッ」彼の大ボケに僕は頭を○○○た。

「こうなりや、やつを殺して俺も死ぬ!」「まあ少し頭を□○せよ」

その時、初めて騙だまされたのに気づいたが、もはやあとの□○だった。

油を売る

むだ話などで、仕事をなまける

① 油売りが、油が最後まで落ちるのをのんびり待った江戸時代の話から。

泡を食う

驚きあわてる

生き馬の目を抜く

人を出し抜いてすばやく利益を得る

息が合う

調子や気持ちがあったり合う

息を殺す

見つかからないようにじつとする

息を飲む

ひどく驚いてはつと息を止める

痛くもかゆくもない

まったく平気だ

痛しかゆし

良い面も悪い面もある

板につく

経験を積み、仕事や役柄になじむ

① この「板」は舞台のこと。役者の芝居が舞台に合ってきたという意味。

一か八か

運を天にまかせる

① サイコロ賭博(とばく)の「丁半」(偶数・奇数)の字の上部の「二八」から。

一日の長

人より経験が多く、上手に出来る

犬も食わぬ

くだらなくて相手にされない

一目置く

自分より優れた人に一步譲る

① 「一目」は碁石一個。囲碁で、下手がハンディとしてあらかじめ石を置いたことから。

一杯食わす

まんまとだます

一本取られる

相手にやりこめられる

色を失う

驚いて青ざめる

引導を渡す

結論を言い渡して、諦めさせる

① 「引導」は、お葬式の儀式で、迷える魂を成仏させること。

浮かぬ顔

心配があり楽しくない顔つき

浮き足立つ

逃げ腰になり、そわそわする

あの野郎まだ帰ってこないのか!? いったいどこで□を□ってるんだ。

孔明の作戦は見事に当たり、驚いた敵は□を食って逃げていった。

一見優雅に見えるが、□□□の目を□□□の厳しい競争の世界だった。

最初は、なかなか□が合わなかったが、徐々にリズムをつかんだ。

あわてて物陰に隠れ、息を□して警官が通りすぎるのを待つ。

その演奏のあまりの素晴らしさに、僕は思わず息を□んだ。

若いうちの一度や二度の失敗は、痛くも□□□もない。

通勤時間は減ったが、電車でのんびり本を読めず、痛し□□しだ。

先輩の見様見真似でやっていた仕事も、段々□についてきた。

自信はなかったが、□か□か泳いでわたった。死ぬかと思った。

やはり情報産業は、パソコンを開発した米国に□□の長がある。

「夫婦喧嘩は□も食わぬ」だ。他人が口をはさむものではない。

宮崎駿には、今やデイズニー経営陣までもが□□置くという。

彼の話信じきった私たちは、まんまと□□食わされたのです。

いやー、こりやおじさん、□□取られちゃったな。わははははは。

自信满满だった彼は、その報告を聞いて、たちまち色を□った。

情けない試合を続ける元横綱に、だれか□□を渡してやろうよ……。

意気揚々と出ていった娘が、なぜか□□顔で学校から戻ってきた。

国際化の波に□□立つ日本を尻目に、着実に国力をつける中国。

嘘八百

次から次に嘘をつく。口から出まかせ

① 「八百」は「たくさん」の意味。「八百屋」も同じ。

後ろ髪を引かれる

未練が残る

後ろ指を指される

陰で悪口をいわれる

うだつが上がらない

幸運にめぐまれない。出世しない

① 「うだつ」は家の屋根を支える柱。上から抑えられていることから。

腕が上がる

上手になる

腕が鳴る

実力を示したくて、うずうずする

腕をふるう

才能を十分に示す

腕を磨く

実力を高める

鵜の目鷹の目

何かを探す鋭い目で辺りを見回す

① 鵜は魚を飲みこんで戻って来て吐き出す鳥。鵜も鷹も、狩猟に用いる。

馬が合う

相手と気が合う

① 武将と、乗る馬の相性がよい様子から。

裏目に出る

予想と逆の悪い結果になる

裏をかく

相手の意表をつく

瓜二つ

そっくりだ

① 二つに切った瓜の左右のようにそっくりだということ。

売言葉に買い言葉

暴言に対し、暴言で返す

うわの空

心が奪われて、集中できない

雲泥の差

差が大きい。月とすっぽん

えりを直す

気持ちを引きしめる

縁起をかつぐ

縁起がいいか悪いかを気にする

縁を切る

関係を絶つ

とっさに嘘□□を並べて誤魔化した。きつとばれている。

終電が近い。が、□□髪を□かれる思いがして、彼女と別れられない。

正々堂々と生きてきた。何一つ、□□□を指されることはない。

連載開始から50年たったが、マスオさんは一向に□□□が上がる。

マイブームは金魚すくい。この2日間でかなり腕が□□った。

問題が難しければ難しいほど、腕が□□というものだ。

当店では、本場のシェフが自慢の腕を□□って、おもてなしします。

オレはヤツと決着をつけるために、三年間腕を□□いてきたのだ。

それまで無関心だった連中も、急に鵜の□鷹の□であら探しを始めた。

初対面にもかかわらず、ヤツとは妙に馬が□い、一晩中話しこんだ。

彼女を喜ばせようと思ってやったことが、ことごとく□□に出た。

体を緊張させて待ちかまえた警官たちは、完全に□をかかれた。

あの双子は□二つで、親ですら区別がつかないことがあるそうだ。

我慢したのだが、□□言葉に□□言葉で、つい暴言を吐いてしまう。

その日の授業も□□の空で、ノートは真っ白のままだった。

濁点の有無には□□の差がある。ハケに毛があり、ハゲに毛がなし。

常に謙虚に人につくす彼の姿に、私も思わず□□を直した。

「寿命も蕎麦のように長く」と縁起を□□いだのが年越し蕎麦。

長い間信じていたキリスト教から離れて、教会とも縁を□った。